

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター佐世保市立すぎのこ園		
○保護者評価実施期間		令和8年1月13日	～
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数)
○従業者評価実施期間		令和8年1月13日	～
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月9日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国の基準配置より手厚い職員体制の中で、発達支援を行っていること	複数担任の中、情報を共有しあいながら、集団だからこそ経験できる支援を提供している。また、必要に応じて、ワークの時間を設けるなど、個別での時間も設定している。	今後も、一人一人の発達を丁寧にとらえながら、必要な支援について、職員間で協議したり情報を共有しあったりする。
2	地域の様々な事業所・施設と、連携しながら、研修を開催したり、体験実習を受け入れたりして、地域の障がい児支援の質の向上に取り組んでいる。	参加者のアンケートなどから、年間計画を立てて、事業を実施している。	今後も、参加者や地域のニーズを把握しながら、必要な支援を提供していきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援プログラムや各種マニュアルの周知。	支援プログラムは、入園時に説明及びホームページへ掲載している。また、各種マニュアルや避難訓練については、入園時やおたよりなどでお知らせしていたが、周知が十分ではなかった。	定期的にお知らせすることで、全体的な周知を図っていく。
2	地域の子どもたちとの交流の機会。	クラスによっては、身近な施設との交流を図っていることである。	各クラス、地域の子どもたちとの交流の機会が持てるよう、できることから計画していきたい。
3			